

平成30年度開発調査推進会議報告

別記様式 2

開発調査推進会議報告書

会議責任者 開発調査センター所長

- 開催日時及び場所 日時 平成31年3月6日(水) 14:00～17:30
場所 クイーンズフォーラム会議室D
- 出席者所属機関及び人数 16機関 32名
- 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	事業推進役が開会を宣言した。
2. 挨拶	理事が主催者挨拶を行った。 水産庁増殖推進部参事官から挨拶を頂戴した。
3. 資料確認	事業推進役が資料の確認を行った。
4. 委員紹介	事業推進役が委員の紹介を行った。
5. 座長選出	規程により理事長が、座長として開発調査センター所長を指名した。
6. 議事	
(1) 開発調査推進会議の役割について	開発調査推進会議の役割等について開発調査センター副所長より説明した。
(2) 開発調査等の30年度の実施状況と31年度計画について	各グループ毎に開発調査等の30年度の実施状況と31年度計画について報告し、それに基づいて協議した。
1) 底魚・頭足類開発調査グループの開発調査について	底魚・頭足類開発調査グループリーダーから、いか釣(スルメイカ)、沖合底びき網、いか釣(アカイカ)の各事業について報告すると共に、31年度計画について説明した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・LED実証事業は成果を感じられる。しかし、漁獲率が現場感覚では現状より落ちる。設備投資が高く、実装には道はまだ遠い。技術が発展する中で耐久性と性能が年々良くなっているため、いつ導入するか悩ましい。コスト面も考慮に入れて研究を進めていてもらいたい。 ・アカイカについては頼もしい成果。初期投資が高額となる。社会的状況も捉えながら普及に向けて対応してもらいたい。 ・底びき網に不要物が入るのは各地共通の問題。同じ網でも入って来るものが場所によって違う。大変重要な課題であり、技術開発を進めてもらいたい。 以上の意見等を加味して次年度以降調査を実施することとした。

議 題	結果の概要
2) 浮魚類開発調査グループの開発調査について	浮魚類開発調査グループリーダーから、遠洋かつお釣、遠洋まぐろはえなわ、海外まき網の各事業について報告すると共に、31年度計画について説明した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・大目網の小型魚混獲削減効果の調査がおこなわれているが、資源管理上重要な知見であり、蓄積を進めていただきたい。また、ドローンの当業船での利用が可能になるよう、調査の進展をお願いする。小型魚削減、漁場の有効活用、エコ FADs 推進に向けた調査は、今後の海外まき網漁業の発展のためには不可欠なものであり、引き続き調査に取り組んでいただきたい。 ・遠洋延縄で短い枝縄の方が効率がいい。短くても漁獲率が変わらない枝縄の研究を進めてもらいたい。揚げ縄、投縄の自動化進めてもらいたい。 以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。
3) 資源管理開発調査グループの開発調査について	資源管理開発調査グループリーダーから、近海かつお釣、沿岸課題の各事業について報告すると共に、31年度計画について説明した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・カツオの漁場の予測で、タグで、より正確に予想できることだが、JAFIC の海洋情報でかなり精度良く予測できる。タグはこれからかもしれないが、予想のアルゴリズムをタグの情報も入れてやれるといい。 ・定置のモニタリングを相模湾でモニタリング魚探をやっていたが、コスト、維持運営が大変だということだがその辺も検討してもらいたい。 以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。
4) スジアラ養殖の企業化に向けた技術開発について	開発調査専門役から、スジアラ養殖の企業化に向けた技術開発について、全体の概要、30年度の実施状況について報告すると共に、31年度計画について説明した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・中国が大きなマーケット。中国でも養殖をやっている。沖縄の陸上でやる有意性を検討してほしい、実際の物流と商流について情報収集が必要ではないか。 以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。
5) ブリの優良種苗周年供給システム構築事業について	開発調査専門役から、ブリの優良種苗周年供給システム構築事業について、全体の概要、年度計画について説明した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・ブリ育種については業界として応援する。予定より早く高成長系統が完成するとありがたい。 ・飼育の先進技術を持つ、大手事業者とも協力してもらいた

	い。 以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。
6) 受託事業、研究会について	所長から、受託事業として開発調査センターが実施した、スケトウダラ音響トロール調査及び、いか釣漁業漁灯技術研究会、定置網漁業技術研究会の概要について資料により報告した。
(3) 総合討論	出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 ・ 沖合漁業等は業界と連携しているが、沿岸漁業の調査を行う場合、地元の水試と連携を取っていないと事業自体が上手くいかなくなる。報告の範囲ではそのことが見えてこなかったので、事業を進める上ではこのことを考慮してもらいたい。 ・ 沿岸漁業の現場では技術指導力が弱くなっている。地元の水試と連携して開発調査センターが技術開発を進めてもらいたい。 ・ 成果報告会等を聞いているとおもしろい話がたくさんある。広報の工夫をしてもらいたい。 以上の頂いた意見を参考に、技術を導入するために必要なコストや採算性の観点に留意して 31 年度の個別の事業を進めていくにこととした。
7. 閉会	所長が閉会の挨拶を行った。